

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
EU41C402		肢体不自由児の理解と支援(Understanding and supporting children with physical disabilities)					高度専門科目										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	1	教育学研究科	後期		氏名 古賀精治・古長治基 E-mail skoga@oita-u.ac.jp, h-kocho@oita-u.ac.jp 内線 7521・6147											
授業の概要	脳性マヒ児等の肢体不自由児もしくは動作に不自由のある知的障害児とその保護者に毎回大学に来てもらい、障害児・者のために研究・開発された指導法である動作法を実際にマンツーマンで行うことによって、障害のある幼児児童生徒の「身体の動き」に関する知見及び具体的な実態把握と指導の方法について実践を通して学ぶ。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 肢体不自由児の運動・動作の発達の特徴について修得することができる。																	
目標2 自立活動の内容の一つである「身体の動き」に関する理解を深めることができる。																	
目標3 「身体の動き」に関する具体的な指導方法について実践的に習得することができる。																	
目標4 肢体不自由児や運動・動作に不自由のある知的障害児との動作を介したコミュニケーションの取り方を身につけることができる。																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 肢体不自由児の保護者との面接の実際																	
2 肢体不自由児に対する発達検査の実際																	
3 障害のある幼児児童生徒のコミュニケーションの基礎的能力に関する実態把握																	
4 障害のある幼児児童生徒とのコミュニケーションの取り方																	
5 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する実態把握																	
6 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する指導 1 - 緊張・弛緩の制御 -																	
7 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する指導 2 - 姿勢保持・変換 -																	
8 上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得に関する実態把握																	
9 上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得に関する指導																	
10 身体の移動能力に関する実態把握																	
11 身体の移動能力に関する指導 1 - 重心移動と踏み締め -																	
12 身体の移動能力に関する指導 2 - 歩行 -																	
13 日常生活に必要な基本動作に関する実態把握と指導																	
14 作業に必要な基本動作に関する実態把握と指導																	
15 指導結果のまとめ方																	
ラーニング	A:知識の定着・確認	原則として一人の障害児の指導を継続して担当する。					工夫	その他の									
	B:意見の表現・交換																
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
時間外学習の内容と時間の目安	準備	配付したプリントを事前に精読しておくこと(15h)。															
	事後	大分県脳性まひ児・者父母の会が主催する月例会や夏休みを利用した集団宿泊集中訓練キャンプで研修の機会があるので、できるだけ参加すること。(30h) 学習。															
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。																
参考書	「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編」(平成30年3月 文部科学省) 「基礎から学ぶ動作法」(平成27年1月 九州大学総合臨床心理センター 編 ナカニシヤ出版)																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	実技の課題達成度	50%															
	討論への参加度や貢献度等の平常点	20%															
	学期末レポート	30%															
注意事項	それぞれ一人の子どもを担当するので、社会的責任を自覚し、参加すること。運動できる服装で出席すること。																
備考	なし。																
リンク	URL																